

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400315		
法人名	医療法人 一心会		
事業所名	グループホーム よりあい		
所在地	吾川郡仁淀川町岩丸43-1		
自己評価作成日	平成26年10月20日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は母体法人の病院が徒歩1分の所に有り、24時間体制での対応・相談に応じてもらえます。周りは緑と清流の自然の中、近くには商店街もあり、ご利用者は外気浴・散歩にと日々季節の風を感じイキイキとご自分のペースで過ごされております。毎日のレクリエーションや行事等で地域の方ともふれあい、またお宅訪問も積極的に行い、ご自分の家を忘れないよう、親しい友人とも会えるよう楽しみを持てる環境で、私達職員も気持ちを共有し人生の先輩として「生きる知恵」を学ばせていただきながら一緒に考え笑い楽しんで、毎日をご利用者とともに生活させていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon:true&JigyosyoCd=3972400315-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年12月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清流に面した豊かな自然に囲まれた事業所であり、遠くからでも目に付くよう2階の窓ガラスに事業所名を掲げて、事業所の周知に役立っている。母体法人の病院がごく近くにあり、24時間常に主治医との連絡が取れ、急変時に迅速な対応が可能な事が家族や職員に安心感を与えている。

管理者は、レクリエーションや作品作り、行事や自宅訪問などの活動を積極的に行い、結果を毎年カラーの小冊子にまとめて発行している。利用者の実際の声綴った小冊子は、全職員が利用者とのふれ合いを大切に、明るく接していることを実感させるとともに、利用者の生き生きとした暮らしをユーモアを交えて伝えている。また、利用者の作品を事業所の駐車場に掲示したり、町主催の文化祭に小冊子と共に出品して、地域住民に事業所をより身近に感じてもらうよう取り組んでいる。

管理者は各種の研修会に職員を積極的に参加させて質向上に努め、運営推進会議では活発な意見交換が行われ、詳細に議事録を作成している。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人とのふれあいを大切に、日々の生活の中で挨拶など関わりを持ち、またこちらからも情報発信に力を入れている。月1回のカンファレンスでははじめに理念の朗読をし、ホール・事務所に理念を貼り出し重要性をしっかりとつかんでおくよう心がけている。	地域と触れ合いながら、本人らしい穏やかな生活を心を込めて支援するという理念を作成し、年間目標である「いきいき生きる」の実践のため、利用者一人ひとりが地域とふれ合う機会を持ち、日常の利用者の言葉に留意してその人らしさを保てるよう、理念に沿ったケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設のイベントへの招待や、町主催の文化展への参加、保育園児との交流等を続けている。散歩や買い物で商店街へも出向き、日常的に挨拶を交わしている。	散歩や利用者宅訪問のときには、地域住民と挨拶を交わし交流している。また、保育園児が来所したり、事業所駐車場で花火、事業所主催の秋祭り等を通して地域住民と交流しており、町の文化展には利用者共同作成の作品を出品している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム駐車場スペースへご利用者の絵などの作品を掲示し見ていただいている。今年の町主催の文化展へはご利用者の作品と、毎年作成しているご利用者の声を綴った小冊子も出品している。..少しでも多くの方にみていただけるようグループホームとはどんな所か、楽しんで生きる知恵などを知って頂く目的。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度の運営推進会議では、ご利用者の様子を活動報告を通して一人ひとりに具体的にお知らせするよう心がけている。それを踏まえて委員の方にはご意見や助言を頂いている。事業所便りでの旨の報告と、会議内容は施設玄関に閲覧できるよう貼りだしている。	会議では事業所活動や各利用者の状況を詳しく報告し、季節行事の行先や利用者の健康管理への助言等を受けるなど双方向的な会議になっている。議事録も詳細に記載し事業所内に掲示するとともに、家族にも事業所だよりと共に要約した議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、介護認定更新時などの機会に情報の共有を図っている。また町への相談等も応じていただいている。その他、町からの見学もして頂き様子も見ていただいている。	町の健康管理課や地域包括支援センター職員には運営推進会議の場で事業所の状況を伝え、適切なアドバイスを受けている。事業所は町管理の建物のため、報告や相談も日常に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人の病院における身体拘束に関する勉強会のほか、外部での研修にも積極的に参加し資料を皆で廻し職員の意識付けを行っている。	法人内研修や外部研修を通じて、身体拘束をしないケアの重要性について全職員が理解し、実践に取り組んでいる。ケア場面で利用者を制止する言葉遣いがあれば、職員同士で注意し合い、転倒リスクの高い利用者には、安全のため家族の了解を得て、センサーマットを使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修へ参加するほか、毎日の申し送り時やカンファレンス等で職員間での意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近では8月29日に地域包括支援センター主催の「人の尊厳を考える」「積極的権利擁護を考える研修会」にも参加し、町内の介護職達とのグループワークにも参加している。日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用についても実際に地域包括支援センターや社協に相談させて頂き、ご利用者が安心できるよう支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定・重要事項説明書・外部評価資料を添えて説明。理解、納得していただき署名・捺印に応じて頂く。今年10月から重要事項説明書一部改正有り、9/12に家族会にて文章とともに変更箇所を説明し承諾を得ている。家族等の連絡を密にし情報交換。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成25年2月にアンケート調査をさせていただいて事業所便り・運営推進会議でも報告済み。今年初めの食事会後の家族会ではご利用者・ご家族・職員すべてに参加いただいて、率直な意見を伺い皆で意見交換している。秋の9月12日の家族会にご家族と意見交換・要望を伺うことにしている。	年2回家族会を開催しており、直近の家族会には4家族7名が参加し、家族同士で話し合う場も設定している。家族からは利用者宅訪問やドライブなどの継続、100歳を目指したケアの実施などの要望が出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送り等、また年2回の人事考課表に記入し一人ひとりに面接を行い、意見交換の場もあり反映できている。	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、会話を通じて意見を出しやすい関係づくりに努めている。職員は申し送りやカンファレンスの機会に管理者に意見を伝え、管理者は職員の意見を尊重して反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、研修、資格取得など各自のスキルアップにつなげるよう環境整備に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修や外部研修の受講を積極的に行い、介護技術の向上につなげている。日々の介護の場面でも指導を行い、皆で話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当施設と系列のグループホームとの交流・活動を通して刺激し合い共に成長している。また、外部の研修でもグループワークに参加して同業者との交流もできている。ご利用者の家族が他施設に居られ、積極的に面会に伺いそちらの職員とも情報交換の機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の外気浴・散歩や入浴時など、リラックスできる雰囲気の中で各職員がご利用者の声を聴きたいと耳を傾けている。初回面接ではなるべく多くの情報を得たいと考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望・意見をよく聞き、事業所の対応などについても相談、理解していただき実行している。玄関前に意見箱も設置している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況やご家族の求めに応じたサービスの提供について検討し、必要に応じて他のサービスへつなげていくなど対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人ひとりの出来る事に応じた手伝いなど、無理の掛からない時点で協力関係を願っている。また、人生の先輩として、日々教えをこうなど職員も色々な気付きも有り、成長させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者と過ごす時間を多く持ついただけるよう行事や誕生日会などの参加の呼びかけをし、力になっていただいている。少しずつではあるがプランに家族の参加・役割として組み込ませてもらい、一緒に支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お宅訪問にて自宅近辺や思い出の場所、また地域行事の参加などで、馴染みの人や場所を常に定期的に訪問し、関係継続に努力している。	馴染みの場所として、利用者宅のほか周辺の山や畑・学校などを利用者宅訪問として訪れ、家族や近隣住民となるべく多くふれ合えるよう支援している。また、家族の協力も得ながら馴染みの美容院を利用したり、墓詣りに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりのペースを崩さず、日々のレクリエーション、創作活動を通して孤立しないよう声掛け、働きかけを行っている。日々、ホールで過ごされることのご利用者の様子を見守り、職員が輪に入り会話するなど心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の方の面会(母体法人の病院に入院される方がほとんど)にも伺い、ホールの皆にも様子を報告するようにしている。また、ご利用者と一緒に状態によっては面会にも訪れることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話に耳を傾け言葉に出来ない気持ち、何気ない表情を出来るかぎり受け止めたいと思い、4年前よりご利用者の心の声を綴った小冊子を作成してきているが、ご利用者との関係も段々と深まり本音の部分でも話をさせていただくようになったと感じる。2年前より心の声でなく、ありのままのご利用者の声を綴った小冊子「ちよいと楽しいお話し」を発行しご家族にお配りしている。	職員は日々の関わりの中で利用者の何気ない言葉や表情を受け止めるための個人別シートを作成し、それを基に利用者の普段の様子や何気ない表情、言葉を抜粋した「みんなの言葉集」や日常の利用者の声を「ちよいと楽しいおはなし」という小冊子にまとめ、その作業を通じて思いを共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「よりあいハートシート」と題して、ご利用者一人ひとりの情報シートを職員全員で聞き取り作成している。新たな情報も随時記入するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムも有り、毎日変わる状態を観察しながら、言葉かけや見守りを行い、職員同士の情報交換をして対応している。また、週1回の医師の回診での内容も連絡帳に記入し皆で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご本人・ご家族の話を聞き、職員・栄養士等でカンファレンスを行い(医師には事前に意見を頂く)意見が反映できるようプラン作成にあたっている。今年10月より再度、ご家族の会議の参加をお願いしたいと呼びかけている。ご利用者も10月より会議に参加して頂きナマの声を頂いている。	利用者の日々の変化を把握し、事前に利用者や家族の意向を聞き、カンファレンスでは母体医療法人の管理栄養士と管理者、職員で話し合いケアプランを作成している。今年10月から利用者が参加して意見を聞いており、家族にも参加を呼び掛けている。計画は6カ月で見直し、状況に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の状態・対応・経過等やエピソードなどの記入に努め、職員全体が把握しケアに活かしている。また個別のチェック表も1ヶ月単位で記入している。また必要と判断した方の睡眠状態や失禁状態も毎日記入し、変化を観察して対応の工夫にあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者を一番に考え、その方に必要なことは柔軟なサービスに努めるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域・施設・職員・とご利用者を取り巻くすべての環境の中での強みを考えながら、地域資源を活かせるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族・ご本人に説明し、母体法人の病院の医師を主治医にいただき、他の専門医の受診の場合も主治医と連携し支援している。週1回の回診を受けている。	入居時に利用者・家族と話し合い納得を得て、全利用者が母体医療機関をかかりつけ医としている。週1回、主治医の往診があり健康を管理している。専門医への受診は家族が対応し、受診結果は管理者が家族から確認のうえ、主治医に報告し、職員は個人記録により共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院の看護師が随時訪問している。看護部長が週2回の訪問にて健康管理やご利用者の状態を把握している。母体法人の病院が徒歩1分の場所にあり24時間体制で支援できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には見舞いや電話で、入院先の医師・看護師・相談員等とも話し合い情報交換、症状の把握や退院時の対応などを相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員・ご家族が連携を取り、その方が少しでも安楽な、穏やかな終末期を迎えられるように支援している。	入居契約時に、家族等に看取りに関する指針の説明を行っている。重度化した場合は指針に沿って家族と話し合い、意向に沿いながら出来る限り事業所で対応することになっている。最終的には母体医療機関に入院となり、事業所での看取り事例は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所へ「緊急マニュアル」を張り出し、日々頭に入れるようにしている。急変時等に対応できるよう協力病院との連絡も密にしている。また事務所入口にAEDも設置し、研修も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により年2回、昼間想定と夜間想定に分けて避難訓練を実施し、消火器の使い方や質問等も行って頂いている。近隣住民にも参加のお願いをしている。	年2回消防職員立会いのもとで火災訓練を行っているが、地域住民の参加は得られていない。最新の地震想定に基づく防災対策について、母体法人や同一法人のグループホームの担当で検討し、基本的な取り組み方針は出来ているが最終決定には至っていない。また、飲料水の備蓄量が少ない。	災害時における近隣住民の協力は不可欠なので、前回の目標達成計画を振り返り、消防署や運営推進会議メンバーの助言を受けながら、地域住民への訓練参加等の呼びかけを継続するとともに、3日分以上の十分な飲料水を確保することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりを敬い尊重する姿勢にて表情の変化等に常に気を配り、言葉掛けもその方に応じた配慮をしている。	利用者一人ひとりの表情を見て、利用者に合わせた声かけや話し方をしている。食欲が減退している利用者には、無理強いせず一度外に出るなど気分転換を図って食事ができるように支援している。利用者の人格を尊重し、本人や家族の了解を得た名前呼び方をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に問い掛け、ご利用者の思いや希望を優先し、散歩へ行かれたり外気浴や買い物など職員と一緒にいる。レクリエーションの中でも発言していただけるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、ご利用者のペースや思いを尊重し傾聴しながら一緒に見たいDVDを観たり、廊下を歩いたり部屋で休んだりとされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	部屋にブティックハンガーを置き、ご自分でその日の服を選ばれる方もいる。お出かけや行事にあわせて着替える方もいる。顔を洗い化粧水をつけ髪をとかしてヘアピンをつけたり、男性はリキッドをつけ、無くなれば一緒に買い物に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒にテーブルセットや食事準備を手伝っていただき、片付けも一緒にされている。施設裏の小さな菜園場で、ご利用者と一緒に野菜を楽しむ程度に作り、食卓に載せて会話を弾ませている。	昼食は母体法人の栄養士の献立により、事業所の畑の収穫野菜も使用しながら調理し、夕食は業者委託のメニューにしている。利用者の希望に応じて昼の献立を変更することもある。利用者は下膳や片付け・米とぎなど出来る事を手伝い、職員は利用者を見守りながら一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士が月2回訪問し、一緒に食事して様子を観ていただいている。カンファレンスにも参加し、その方に応じた支援の方法や相談・意見を伺っている。水分補給は1日1200ml程度を、味を変えたり場所を変えたりと工夫して摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、感染症に気をつけるべく、ご本人の習慣などを踏まえて個別に声掛け・見守りを行っている。出来る事まではご本人にさせていただき、必要に応じて介助し、清潔に努めている。義歯は週1のペースでポリドントを施行している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の時間や習慣を把握し、その方に合った支援を心がけている。布パンツから紙パンツへの移行も慎重に失禁状態のデータを取りながら、声掛けやタイミングを見、情報交換して布パンツでの継続を試みている。	水分摂取にも注意を払い、起床時・食事・おやつの後には必ずトイレ誘導をするほか、利用者1人ひとりの排泄パターンに応じて誘導している。日中は布パンツにパッドの使用などで過ごし、夜間は布パンツのほか紙パンツにパッドやポータブルトイレも使用しながら自立に向けて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の摂取、散歩や屋内での歩行を促すなど便秘予防・改善に向けた支援を心がけている。入浴時にはお腹まわりのマッサージも施行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望にあわせて入浴していただいている。身体の状態を見て入浴が必要と思われるご利用者には声を掛けて多く入浴していただき、清潔を保てるように支援している。平均週3回の入浴ができています。体調がよくない場合は清拭も行っている。	利用者の希望に沿い、体調に留意しながら基本的に午前中に声をかけ、入浴を支援している。異性による入浴介助を拒む利用者には同性職員が対応している。現在は、入浴を拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は天気や体調により、なるべく外気浴や散歩・運動を積極的に行っている。時には外でのレクリエーションも兼ねて行い、活動的にすごしていただき、夜はゆっくり休んでいただいている。体の状態に応じて昼寝される方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師からの服薬情報を共有し、薬局からの薬剤情報で効能・注意事項を確認している。処方が変わると連絡帳に記入し、申し送りで職員間でご利用者の状態の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、少しの時間でもとレクリエーションや創作活動に力を入れている。他に、ご利用者の好む作業、野菜作りやおやつ作りなどを手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により外出の頻度は変わるが、春や秋の過ごしやすい時には積極的に散歩やドライブを行っている。ご利用者が希望される買い物や銀行・郵便局へも随時対応している。	外気浴のために駐車場まで出たり、利用者の希望で近くの商店への買い物や郵便局等へ出かけている。月に4人程度の利用者宅を訪問し、自宅や周辺の様子を見たり、墓等に行っている。また、初詣や四季折々のドライブにも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、ご利用者にある程度の額を通帳に入れてもらい、それを本人が管理して買い物や預金の引出しを行っている方もいる。(職員は同行・見守り)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けてもらったり、暑中見舞いや年賀状のやりとりをしている。またご家族に手紙を書かれると「郵便局へ行きたい」と言われ職員が同行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール壁や玄関、駐車場等に季節を感じられる装飾をご利用者と一緒に作成し展示している。	居間は明るく掃除が行き届いており、居間の壁面には利用者と職員と一緒に作成した季節にちなんだ貼り絵や、利用者が毎週2回描いている絵手紙が飾られ、廊下には外出時や行事の時の利用者の写真が掲示され、利用者が親しみを感じてくつろげるような空間にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外のベンチや玄関先の長いす、廊下奥にも椅子を設置し、まどろみの空間も確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきていただき、ご本人の使い勝手のいいように、また安全に移動できるように設置し、カードや写真などを好みに合わせて壁に貼ったりと個性のある、居心地のよい空間を工夫している。レクリエーションで作成した自分の作品を飾って居られる方もいる。	居室には歌手のポスターや入居前に興味で撮った花の写真、家族写真、職員と一緒に写真などを飾り、それぞれの個性のある居室になっている。椅子・テレビ・カーペット等、自分の好みの物を置いて居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が自立した生活ができるよう、その方に応じた環境整備に努めている。「トイレ」「風呂場」などわかるように必要に応じて張り紙をしている。ご利用者の部屋の戸にも「出て右側にトイレあります」とその方に応じて張り紙をして、ご自分で迷わないよう工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				